[同行講師]
平野 芳英氏の横顔

Profile
1951年島根県生まれ。熊本大学大学院文学研究科修了。島根県八雲立つ風土記の丘勤務後、ＮＰＯ法人出雲学研究所、荒神谷博物館副館長を経て現職。著書：「古代出雲を歩く（2016）」（岩波新書）他

NEW 同行講師:平野 芳英氏（荒神谷博物館学芸顧問）

12名限定・出雲の『石神さん』を訪ねて～古代の人々がみた自然の神々～

掲載No		
55	東京発	6AEV5R60
	大阪発	6CEV5R60

東京・大阪発
食事 朝2、昼2、夕2

▶最少催行人員：9名

11月発のみ 少人数 ひとり

旅行代金（大人おひとり様）

出発日	出発地	2人1室	1人1室
6月8日 11月8日	東京発	162,000円	170,000円
	大阪発	142,000円	150,000円

※添乗員は初日出雲空港から最終日出雲空港まで同行します。　※利用バス会社：サンフラワー観光
※部屋タイプ：洋室　※現地合流についてはP39をご参照下さい。　※写真は全てイメージです。
※石神さんは山中などに位置する場合が多いため、歩きやすい服装・お足元でご参加下さい。2日目の韓竈神社は駐車場から約800mお歩きいただき、約300段の石段を上ります。

行程　→バス　⇒航空機　…徒歩　＝列車　～船　++その他

日	行程
1	羽田空港（7:00～10:30発）⇒出雲空港　伊丹空港（9:00～11:00発）⇒出雲空港 →出雲市・立石神社（「たていわさん」の3つの荘厳な巨岩）→千把が滝（島根半島部最大とされる崖）→松江市・恵曇神社（地域を見守る「座王さん」）→佐太神社（出雲国三大社の内の一つ）→生馬神社（道返神を祭神とする御神体）→夕刻:松江エクセルホテル東急泊（「出雲の石神さん」講座、洋コース夕食）
2	午前:宿→出雲市・韓竈神社（人里離れた山中で巨石に抱かれた本社）→木佐家の要石（国引きした国を留めるという石神）→大寺薬師収蔵庫（薬師如来坐像など著名な平安仏像群）→多倍神社（「首岩」と呼ばれる2つの巨石）→鬼の腰掛岩（現代に出現した巨岩）→須佐神社（須佐之男命御魂鎮めの御社）→雲南市・飯石神社（地名由来の女神を祭る）→地元料理店にて和会席夕食→夜:同宿泊
3	朝:宿→雲南市・須我神社（日本初之宮）→須我神社・奥の院（親子3神を祭る3つの巨石）→塩釜神社（巨岩の狭い間をぬって参拝）→鮭神社→松江市・女夫岩遺跡（古代祭祀の土器片が出土）→来待ストーン（石棺材となった来待石を紹介）→石宮神社（地名由来の神話に関わる犬石と猪石の巨石）→ 出雲空港⇒羽田空港（17:30～20:45着）　出雲空港⇒伊丹空港（16:00～18:00着）

出雲市・韓竈神社

須我神社　奥宮の夫婦岩

佐太神社

『出雲国風土記』に「石神あり」と記される出雲の自然神信仰。古代から続く神社の御神体とされ、山深い森に荘厳な姿を見せる石神。今なお地域の方々に守られ、人の心に宿る「出雲の石神」。山深くなどに位置し、訪ねることが難しい場所が多いですが、今回は少人数限定、小型バスを利用して巡ります。

NEW 同行講師:平野 芳英氏（荒神谷博物館学芸顧問）

出雲神話と古代史の舞台ー出雲のたたら製鉄とオロチ伝説の地

掲載No		
56	東京発	6AEV5R70
	大阪発	6CEV5R70

東京・大阪発
食事 朝2、昼2、夕2

▶最少催行人員：10名

3日目を除く ひとり

旅行代金（大人おひとり様）

出発日	出発地	2人1室	1人1室
10月13日	東京発	156,000円	162,000円
	大阪発	136,000円	142,000円

※東京・大阪との共同募集コースです。添乗員は初日出雲空港から最終日出雲空港まで同行します。
※利用バス会社：サンフラワー観光　※部屋タイプ　1泊目：和室（バスなし・トイレ付）　2泊目：洋室　※現地合流についてはP39をご参照下さい。　※写真は全てイメージです。

行程　→バス　⇒航空機　…徒歩　＝列車　～船　++その他

日	行程
1	羽田空港（9:30～11:00発）⇒出雲空港　伊丹空港（10:00～11:00発）⇒出雲空港 →安来・和鋼博物館（日本で唯一のたたらの総合博物館）→金屋子神社（タタラ鍛冶の守護神）→奥出雲・たたらと刀剣館→夕刻:亀嵩温泉 玉峰山荘泊（温泉旅館、夕食前に「出雲のたたら製鉄」レクチャー）
2	朝:宿→大原新田（砂鉄採取のための鉄穴流し跡地に拓かれた棚田）→伊賀武神社（元八重垣神社、鏡の池）→神原神社古墳（大量の鉄器が出土した古墳）→天が淵（ヤマタノオロチが暮らした場所）→温泉神社（稲田姫の両親が暮らした場所）→鉄の歴史博物館（金屋子神の信仰紹介、記録映画「和鋼風土記」）…吉田町（鉄山経営者「田部家」の企業城下町、土蔵群など当時の面影を残す町を散策）→菅谷たたら山内（全国で唯一今に残る「菅谷高殿」）→夜:ツインリーブスホテル出雲泊
3	朝:宿→朝日たたら跡（類例を見ない複雑で精巧な地下構造）→宮本鍛冶山内遺跡（江戸時代製鉄業を営んだ田儀櫻井家の製鉄遺跡）→韓神新羅神社（国内で唯一韓神を称する社）→静之窟（大国主命と少彦名命が国造りの策を練った場所）→ 出雲空港⇒羽田空港（17:30～18:30着）　出雲空港⇒伊丹空港（16:00～17:00着）

オロチが暮らした伝説残る天ケ淵

静之窟

中国山地の奥から流れ出す斐伊川流域には、ヤマタノオロチの伝承地があります。古くは4世紀中頃の神原神社古墳からは、国内で2枚しかない「景初三年銘三角縁神獣鏡」と共に多くの鉄器が出土しています。また、奈良時代の『出雲国風土記』には、波多小川や飯石小川の項には「鐵あり」とあり、当時から斐伊川流域の砂鉄を利用して、鉄器生産が行われていたことがわかります。人々の生活を潤す斐伊川の水と新たな生活手段となった鉄器を作る鍛冶の炎、この「水」と「火」がヤマタノオロチ伝説の根底にあると考えられます。奥出雲中心に残るオロチ神話伝承地と製鉄遺跡をたどりながら、出雲の製鉄文化を探る旅に出かけませんか。